令和７年度　第５号　（通刊168号）

発行　令和８年１月１３日
(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

付着生物ラーバ情報

海域によってはユウレイボヤが大量付着する可能性があります

1　12月中旬～1月上旬のラーバ出現状況

付着生物ラーバ調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2～5のとおりです。

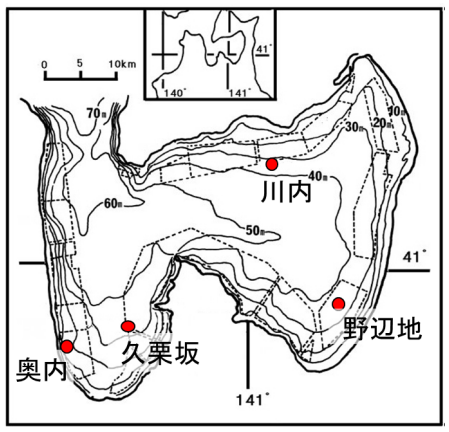

図1　付着生物ラーバ調査地点

（１）ユウレイボヤラーバ（通称：ハナ）

奥内で0.8個体/m³、久栗坂で0.6個体/m³、野辺地で3.1個/m³見られました(表1、図2)。

（２）ムラサキイガイラーバ（通称：カラスガイ、シュリ、マルゴ）

奥内で24.2～30.0個/m³、久栗坂で1.7～15.6個体/m³、野辺地で7.0～20.3個/m³見られました(表1、図4)。

（３）マボヤラーバ

奥内で5.0～9.2個/m³、久栗坂で10.6個/m³、野辺地で0.8～1.6個/m³見られました（表1、図5）。

2　今後の見込み

（１）ユウレイボヤ

10月以降の累積ラーバ出現数は、奥内で3.2個体/m³、久栗坂で3.0個体/m³、野辺地で7.1個体/m³、川内で0.0個体/m³です。**野辺地では付着数が多くなる目安である5.0個体/m³を上回った**ことから、海域によっては出荷時期に大量付着し作業効率が低下する可能性があります。

また、陸奥湾の中層水温は西湾で7～11℃台、東湾で5～6℃台となっています。西湾ではユウレイボヤが産卵する8℃以上の水温となっている海域があることから、今後もラーバの出現が継続する可能性があります。

（２）ムラサキイガイ

ラーバが出現していますが、**秋から冬生まれのラーバの養殖篭への付着は少ない**ことが分かっています。

（３）マボヤ

マボヤラーバは9℃を下回ると活性が低下し泳げなくなるため、ラーバが出現していますが、**付着は終盤である**と考えられます。

表1　令和7年12月中旬～令和8年1月上旬のラーバ等出現数

単位：個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サンカクフジツボ	ムラサキイガイ	マボヤ ラーバ	マボヤ 卵
奥内沖	12月19日	0.0	0.0	30.0	9.2	0.0
	12月24日	0.8	0.0	24.2	5.0	0.0
	1月7日	0.8	0.0	26.7	5.8	0.0
久栗坂沖	12月19日	0.6	0.0	1.7	10.6	0.0
	1月7日	0.6	0.0	15.6	0.0	0.0
野辺地沖	12月14日	0.0	0.0	12.5	1.6	0.0
	12月20日	3.1	0.0	7.0	0.8	0.8
	1月7日	0.0	0.0	20.3	0.0	0.0
川内沖	12月19日	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0
	1月7日	0.0	0.0	18.0	0.0	0.0

（４）その他

サンカクフジツボラーバの発生は終了したと思われます。

ミネフジツボ、キヌマトイガイのラーバはほとんど確認されていません。

発行元：地方独立行政法人
青森県産業技術センター　水産総合研究所
住　所：青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10
TEL：017-755-2155　FAX：017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL：https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui_sougou/

海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード